

「JENESYS2019」香港・澳門高校生訪日団（招へいプログラム）の記録 （対象国：中国、テーマ：ものづくり）

1. プログラム概要

香港特別行政区政府教育局及び澳門特別行政区政府教育暨青年局が派遣した香港・澳門高校生訪日団計 75 名が、12 月 10 日から 12 月 18 日の 8 泊 9 日の日程で来日しました（香港団団長：林日豊 獅子会中学 校長、澳門団団長：曾紀川 鏡平学校 副校長）。

訪日団は東京のほか、大阪・奈良・愛媛・三重・愛知を訪問し、各地の高校で日本の高校生と相互理解・交流を深めました。また、ホームステイや和風温泉旅館宿泊体験、地方の歴史・自然・文化等の見学などを通じ、日本人の温かさや日本の魅力を体感しました。香港・澳門高校生は、本事業を通じ、日本人の考え方に触れ、さまざまな角度から日本理解を深めることができ、見聞したことや体験したことを自身の SNS 等を通じて発信しました。また、報告会で帰国後のアクション・プラン（活動計画）について、各団の代表者が発表しました。

【訪問地】 東京都（全員）、
大阪府・奈良県・愛媛県（香港団 50 名）、三重県・愛知県（澳門団 25 名）

2. 日程

12 月 10 日（火）

成田国際空港より入国

【オリエンテーション】

12 月 11 日（水）

【テーマに関するセミナー】テーマ：Made in JAPAN に息づく日本文化と精神性

【見学】国立科学博物館、皇居二重橋

【歓迎会】

12 月 12 日（木）～12 月 16 日（月） ※香港団、澳門団に分かれプログラムを実施

●香港団：大阪府、奈良県、愛媛県

【学校交流】大阪府立桜塚高等学校、愛媛県立松山東高等学校（香港団 1 号車）

大阪府立刀根山高等学校、愛媛県立大洲高等学校（香港団 2 号車）

【体験】ホームステイ（奈良県飛鳥地域）、温泉旅館泊

【テーマに関する視察】パナソニックミュージアム

【見学】吹田市資源リサイクルセンター、東大寺、橿原神宮、松山城、愛媛大学ミュージアム

●澳門団：三重県、愛知県

【学校交流】三重県立宇治山田高等学校、名古屋市立名古屋商業高等学校

【テーマに関する視察】トヨタ産業技術記念館

【体験】ホームステイ（三重県大紀町）、扇子製作、温泉旅館泊

【見学】名古屋港防災センター、夫婦岩、ミキモト真珠島、伊勢神宮、名古屋城

12月17日（火）

【見学】しながわ防災体験館（香港団）、葛西水再生センター（澳門団）

【歓送報告会】団員による感想・アクションプラン発表

12月18日（水）

羽田国際空港より出国

3. プログラム記録写真

〈共通〉



12月11日【セミナー】「Made in JAPAN に息づく
日本文化と精神性」



12月11日【見学】国立科学博物館



12月11日【歓迎会】香港高校生パフォーマンス



12月17日【歓送報告会】団員による感想・アク
ションプラン発表

〈香港団〉（訪問地：東京都、大阪府、奈良県、愛媛県）



12月13日【学校交流】大阪府立桜塚高等学校



12月13日【学校交流】大阪府立刀根山高等学校



12月16日【学校交流】愛媛県立松山東高等学校



12月16日【学校交流】愛媛県立大洲高等学校



12月12日【見学】吹田市資源リサイクルセンター



12月12日【テーマに関する視察】パナソニックミュージアム



12月14日【見学】橿原神宮



12月15日【体験】ホームステイ（奈良県飛鳥地域）



12月15日【見学】松山城



12月17日【見学】しながわ防災体験館

〈澳門団〉（訪問地：東京都、三重県、愛知県）



12月13日【学校交流】三重県立宇治山田高等学校



12月16日【学校交流】名古屋市立名古屋商業高等学校

	
12月12日【体験】扇子製作	12月12日【見学】名古屋港防災センター
	
12月13日【見学】夫婦岩	12月14日【見学】伊勢神宮
	
12月15日【体験】ホームステイ（三重県大紀町）	12月15日【見学】名古屋城

	
12月15日【テーマに関する視察】トヨタ産業技術記念館	12月17日【見学】葛西水再生センター

4. 参加者の感想（抜粋）

◆香港団

○一番印象深かったのは愛媛での弓道体験であった。私はアーチェリー部に所属しており、弓道に対してもある程度の認識とイメージを持っていた。ところが実際に体験してみると私が思っていたものとはかなり異なる点がたくさんあった。例えば弓道で使用する弓矢は全て右手に持ち引く。私が普段慣れているやり方とは異なるが、何回か練習した後に基本動作を把握できた。また日本弓道は引き方も異なり、器材の区別や距離も異なる。現代の弓術は試合を目的とすることが多いが、弓道は依然として独特の美しさと優美さがある。今回の体験を通して心をオープンにして学ぼうという気持ちで新しいものを学ぶことができた。それは異なる国の文化だ。一つの国の文化は数千年にわたる歴史が生み出したものでそれぞれに特色があり、広く豊かである。異なる文化を賞美することで自分の人生を更にすばらしくワクワクしたモノで満ち溢れるようにしたいものだ。

日中両国の同じところは、人のもてなし方に似ているところがあると思う。日本で交流した際、私たちは格別なもてなしを受け、すばらしい待遇を享受できた。中国においては客人をもてなす際はまるで家に帰ったような気持ちになってもらうことをよしとする。両国とも積極的に自分の最もいい面を表すことで客人に楽しんでもらう。異なる部分は日本の伝統文化は日本人の生活の中で大きな部分を占めていることではないかと思う。例えば部活動や風習などだ。中国では都市部の生活は比較的現代的で、伝統の継承という点は普段の生活の中にはあまり現れない。これらの違いを通して自国の歴史が文化の変遷にどう影響したか、時の流れの中で文化や風習が伝承されていく形式を顧みる機会となった。

○学校訪問を通して日本の高校生の温かさを感じた。私たちが学校へ着くやいなや拍手で出迎えてくれ、また学校を離れる際はずっと手を振ってくれた。今回日本の高校生もたくさんのアクティビティやパフォーマンスを準備してくれていた。多くの日本の伝統的な文化、茶道や剣道、カルタなどを体験し、どれも大変面白かった。ただ交流にあたっては正直なところ言葉の壁がかなりあったが、英語やボディランゲージを駆使してコミュニケーションを図った。今回の2回の学校交流を通して、言葉を学ぶのはいい成績をとるためではなく、人とコミュニケーションをとることが一番大切で、

それには相手に理解してもらえる文を用い、難しい単語を使うことではないということを学んだ。他にも学んだことは、将来仕事をする際、人に対しては真摯に向き合おうということだ。そういう気持ちはきっと伝わったと思う。異なる点は日本の部活動は生徒が主体で先生は見守っているところで、香港とは真逆だった。しかも日本の高校生は先生の監視がなくても真面目に取り組んでいた。

松山城の歴史はとても深く、こういった城塞形式の建築物を見学するのは初めてだが、見学を通して日本の伝統文化を保存する精神が香港とは異なる点を深く感じた。日本では建築物が破壊、焼失しても再建する道を選び、その本来の姿をとどめようとする。例えば石垣、日本では努力して古来の建築方法を研究し、再建する。香港では経済発展が優先され、身近な古いものは軽視されている。仮に残されても商業的なスタンスに立って観光客を呼び込むことに使われる。

○2回の学校交流で多くのことを得た。松山東高校も桜塚高校も豊富なプログラムを準備してくれ日本の学校生活を体験することができた。日本の高校の部活動は種類が多く、しかも時間もかなりさかれている。香港では学業が重視されるので部活動に充てる時間はそれほど多くなく、補習も多い。今回の訪問を通して学業と部活動のバランスをいかにとるか自分自身を振り返るきっかけとなった。香港に戻ったらきちんと時間管理を行い、部活動にも積極的に参加しようと思う。また学校のイベント、例えば運動会、日本では生徒が主体となっているが香港では先生の主導のもと行われ、生徒は指示に従うだけだ。やはり生徒がより能動的に動ける能力を強化するべきだと思うし、自分自身もさらに主体的に動けるようになりたいと思う。

大阪府の吹田市資源リサイクルセンターを見学した際、日本の廃棄物の処理は非常に緻密に真摯に取り組まれていることを知った。日本では12種類に分けリサイクルが行われている。香港では多くても5種類、3種類が基本だ。日本人は資源のリサイクルにおいて非常によく取り組んでいる。しかも小さなころからこういった意識を教育し、小学4年生になるとリサイクルセンターに見学に来て分類方法を学ぶ。日本人の環境意識の高さを垣間見た。これは理想だが、香港社会にもそっくり取り入れたらどうかと思う。もちろん実現性は高くないだろうし、効果も薄いだろう。まずは廃棄物リサイクルにおける香港人の環境意識を高め、さらに一歩よりよい政策を実行するのがいいのではないかと思う。そして自分自身環境保全やゴミの減量につながる努力をしているかどうか振り返ってみる必要があると思った。普段の生活の中でゴミのリサイクル或いは減量化の習慣を身につけ家族とシェアし、一緒に環境保全に努めたいと思う。

○今回のJENESYSの日本訪問で私自身多くのものを得ることができた。その中でも私の印象が最も深かったものは日本人の「匠の精神」だ。

日本人の「匠の精神」は日本人にとってはあたりまえの、愛すべき、自分の仕事においても心を注いでいるものと言えるだろう。日本訪問2日目に「メイドインジャパン」の講演を聞いた。その中で私は日本人の「とことんよいものを追求する」精神を見た。最後の質疑応答で香港の高校生の多くは「費用対効果」問題をあげたが、北條先生の講演の中でより多く感じたことは、日本人は自分が正しいと思うことをあたりまえのようにとことんやりぬくということだ。例えば講演の冒頭で先生が私たちにプレゼントしてくれた28の角がある消しゴムから、また見学した吹田市資源リサイクルセンターの処理過程においても日本人の完全主義、何事においてもとことんよいものを追求する精神がみてとれる。そしてそれをさらに改善しよりよくして、より使いやすくしようとする。

この他にも「匠の精神」は学校の中でも見られた。日本の学校には多くの部活動があり、生徒たち

は積極的に参加している。松山東高校との交流の中でもそこそこに垣間見ることができた。書道部の生徒たちが大変熱心に字を書く姿、交流会でも日本の高校生はとても温かった。華道部の生徒たちも花を生けるにあたりどうしたらより美しく、調和がとれるのかとことん追求していた。こういったことから日本の高校生が部活動を頑張っている姿や、かなりの時間を捧げ大切にしていることが分かった。

日本人の「匠の精神」は随所に見られ、私も何か一つのことを当たり前心に心を込めて行い、好きになってこそよい成果が得られるのだと知ることができた。

○学校訪問の中で日本の高校生と交流し、互いに普段の生活や勉強における同じ点、異なる点を知ることができた。また授業や部活動への参加体験を通して日本の高校生の授業科目への理解を深め、日本文化に触れることができた。また日本の高校生の温かいホスピタリティを通して本音の部分に触れられて、私の視野と日本の若者に対する全面的な理解が広がった。ホームステイでお世話になったKさんご家族は本当に親切に面倒を見てくれ、大変感動した。ともに過ごした時間はわずか一晚であっても、ホストファミリーが私たちのためにいろいろ準備してくれたアクティビティ（温泉体験、山に登って夕日を見たこと）や互いの交流を通して、いつの間にか深い友情が芽生え、お別れの際は互いに抱き合って名残を惜しんだ。今回のホームステイで日本の家庭や生活スタイルに対する新たな発見があった。

またパナソニックミュージアムを見学した際、創業者松下幸之助の生涯と理念を通して日本の匠の精神、すなわちものづくりにおける情熱、消費者や社会及び従業員に対する責任を認識した。

今回の体験は今後の学習においても私の人生においても大変貴重な経験となった。

○滞在中二カ所の学校訪問、ホームステイまた国立科学博物館を見学した。学校交流では日本の温かさや我慢強さを感じた。日本の高校生はわずかな中国語と英語しか話せなかったが、みんな一生懸命辞書を引いて異なる単語や文を用い私とコミュニケーションを図ろうと努力していた。交流した際、日本の高校生はみな我慢強く、熱心に私の香港や香港の学校紹介に耳を傾けてくれた。授業中、日本の高校生は積極的に質問に答え、教室の雰囲気もよく、香港の詰め込み式の授業スタイルとはかなり異なっていた。数学の授業では、日本のスタイルは先生と生徒の相互交流に重点を置き、ゲームや互いのやりとりを通して生徒がより理解を深められるよう工夫されていた。香港の教え方より日本のスタイルの方が生徒はより勉強に力をいれ、好きになるだろうと思う。

ホームステイでは伝統楽器（八雲琴）体験や伝統的な料理を作った。これらの体験を通して日本では文化の継承がしっかりと行われていることを知った。ホストファミリーのNさんの奥さんは八雲琴の伝統文化を伝えるために村に子供用の講座を開設し子供たちに八雲琴を教えている。また定期的に博物館で伝統音楽を演奏している。香港ではこういった資源を文化体育方面にあまり力を入れていない。中国の伝統音楽も粵劇などの伝統文化も継承できない危機に瀕している。今自主的にこういった中国の伝統音楽を学ぼうとする人がいないのが現状だ。

最後に国立科学博物館の見学で日本の科学技術と歴史の変遷を知ることができた。ますます多くの日本の科学者たちが国際舞台で活躍し、日本の科学者がノーベル賞を受賞したというニュースが珍しくなくなっている。日本の匠の精神が日本の科学技術を更に発展させ、利益よりもよりよいものを作り出そうとする精神が彼らにより多くのお金と時間を科学技術の研究に専念させている。中国と比較して日本では不良品は格段に少ない。こういったことも日本の匠の精神に帰来するものだ

と思う。彼らの完全主義が日本の科学技術をさらに発展させている。中国ではどちらかと言えば生産量を重視し、日本は製品の品質に重きを置いている。ここからも日中の異なる文化を見ることができる。

○学校交流では日本の学校文化を深く知ることができた。大阪府立刀根山高校を訪問した際、家庭科の授業は大変驚いた。香港の高校にはこういった教科はない。中学の時はあったが、こんなに真剣ではなかった。

日本の教育はどの学科も真面目に熱心に取り組まれていて、香港も参考にすべきだと思った。家庭科では調味料の特徴、調理技術などを学んでいたが、香港では家庭科はままごと遊びぐらいにしかとらえられていない。一般の学生に至っては何の役にも立たず、大人になっても調理技術もお粗末なままだ。体育の授業も真面目に取り組まれていた。多くの香港人は体育の授業は娯楽のようなものだととらえているが、日本の高校生は先生が見ていないところでも手を抜かず一生懸命に走っている。本当に素晴らしいと思った。

また日本の各地での見学活動を通して日本の文化と歴史を深く知ることができた。例えば東大寺や橿原神宮では日本の宗教文化への理解が深まった。松山城の見学では日本の伝統建築の風格や日本史を感じることができた。

つまり日本文化は私の心に奥深く印象を残した。本当に貴重な経験となった。

◆澳門団

○今回の交流活動の中では多くの印象が残っている。初めに歓迎会の際、香港側も日本側もパフォーマンスを行い、同年代の高校生と和気藹々と楽しく交流できた。その次はホームステイ。これは一番大きな印象が残った。ホストファミリーは細やかに面倒を見てくれ日本の家庭生活を体験できた。お別れの際は本当に離れがたくホストファミリーも泣いていた。

学習面では最初のセミナーで得た収穫が大きい。北條教授のお話は明確で分かりやすく、質疑応答の中で皆が出した疑問や教授の回答を通してさらにいろいろ学ぶことができた。工場や製造業の解説では多くの疑問が解けた。とくに「価値は現在だけにとどまっているのではない」という言葉が心に残った。多くのお金をつぎ込んでナノミクロンのギアを開発しても有効利用されていない、これでは金銭の無駄遣いではないかと大いに疑問を感じていたのだ。

また学校交流もいろいろ記憶に残っている。日本の高校生はみな温かくすぐ打ち解けることができた。また授業のスタイルも今後英語の授業でも私たちの参考になると思う。鬱々とした雰囲気の中ではない環境で学び、多くのアイドルのファンと知り合い、茶道や華道、日本式の浴衣を体験した。

今でもホームステイでMさんが私に和服を着せてくれた時の温かい感覚を覚えている。様々な交流の中で多くの先進的な科学技術を見た。日本人は礼儀正しく、すべての交流はよい環境の中で行われた。今回の訪問を通して日本の紡織技術の発展や日本の伝統文化を学び、基盤の厚い文化は私に日本の歴史を感じさせた。今回の日本訪問で日本人の温かさ、先見の明があり新しいものを生み出そうとする精神を学んだ。さらには彼らの文化遺産に対する重視と伝承を学ばなければならないと思う。

○私たちは今回の交流の中で三重県立宇治山田高校と名古屋市立名古屋商業高校を訪問した。初め

に 12 月 13 日宇治山田高校での交流で数学の授業を体験した。学ぶのは高二の内容で始めは抵抗があった。ただ実際に体験したら思っていたほど難しくなかった。というのは日本の高校生が熱心に教えてくれたからだ。言葉は通じなかったが一生懸命私が解答を書くまでずっと解説してくれた。本当に意外だったが彼の我慢強さを学んだ。16 日の名古屋商業高校での交流は、日本の高校生が私たちを校内案内してくれた際、いろいろと話すことができた。主には日本の高校生の学校生活についての話だった。私も商業科で学んでいるので、学校見学はいろいろな収穫があった。日本の学校の授業進度や澳門と異なる点への理解が深まった。2 校の訪問で茶道をどちらでも体験し、日本文化の奥深さを知ることができた。

澳門と日本の学校生活が大きく異なる点は部活動だ。日本の学校の「部活」は様々な種類があり、文化系なら茶道、華道など。体育系ならバスケットボールやバレーボールなどがある。こういった活動は生徒の様々な興味を育て、味気ない学校生活をより楽しいものにできると思う。澳門は部活動の種類が少なく自分に合った部活を見つけるのは難しい。

○今回の交流で日本と中国の社会生活、学習、経済等の方面の異なる点を体感し、多くの貴重な経験と友情を得ることができた。北條先生のお話の中で日本の製造業の発展と有名な「匠の精神」への理解を深めることができた。匠が一つ一つのものづくりに心血を注ぎ、熱心に取り組む状況を知った。彼らの物事に対する旺盛な知識欲とたゆまない探求心は私たちにとっても大変参考になると思うし、新しいものを開発する際の情熱とスピードは私たちに欠けているものだ。日本の和服と中国のチャイナドレスはそれぞれ伝統的な衣服であり、象徴であるとともに各時代の科学技術の変遷と進化の証でもある。

また名古屋港防災センターでは震度 7 の地震を体験し、これまで味わったことのない恐怖を感じた。わずかな地震体験でさえこれほど恐ろしいのに実際地震に遭った人々はどれほど恐ろしく絶望を感じただろう。自分自身澳門のような災害のない場所に生まれたことを感謝した。

学校交流では授業の科目が多方面にわたっている点が参考にできると思う。例えば日本の高校では水泳や家庭科などがある。他にも茶道や華道などの部活動があり、日本の伝統文化や風習を継承するだけでなく、生徒に多方面での発展を促し学業成績だけに偏ることがなく学校生活がより楽しいものにしている。

葛西水再生センターの見学では環境保全は一日にしてはならずということを知った。過去にコレラが蔓延したことにより人々の地下水道の研究発展を促され現在につながっている。環境保全を掲げるなら一刻でも早く取りかかることが大切だと思った。

5. 受け入れ側の感想

◆日本高校生

○私は今までに香港に行ったことがなく、香港については最近報道されている中国との問題でしか気に留めることがなかった。そのため、交流会の前日に生徒会の後輩から交流会に誘われた時には、どんな考えを持った人たちなのだろうと想像がつかなかった。だが実際に交流会が始まり、学校内を案内しているときから普段の私たちでは気が付かない視点からの疑問や質問があり、香港の学校との違いも細かく話してくれて驚くことがあった。特に、香港の学校には修学旅行がないことと、日本には普段からあるご近所付き合いがないということに驚いた。よってご近所付き合いの利点や何

をするのかという質問が多かった。また、私が桜塚高校の生徒会に参加していたこともあり、生徒会の仕事内容や役職についても多く話をした。

今回交流した香港生徒の学校には生徒会に加えて、学校の風紀だけを取り締まる生徒会のような団体があるそう。このようにさまざまな違いを感じ、気づかせてくれた香港の生徒達だが、非常に日本語が上手で会話しやすく、日本語と英語を交えながらの会話となったのも楽しかった。

最後に一緒に撮った写真を SNS へ投稿をしても良いかを聞くために、事前に調べた「一緒に撮った写真を SNS に UP しても良いですか？」という日本語をスマートフォンに録音して、写真を撮る度に再生して許可をもらう生徒がいて、その親切さとスマートフォンを活用するというアイデアが私には興味深かった。これからも日本に興味を持ってぜひ来てほしい。私自身も香港について大変興味を持つことができた。

○今回香港から来てくださった高校生との交流を通して改めてコミュニケーションの大切さ、そして国際交流の必要性を感じることができました。

初めて会ったときは何を話したら良いかわからず、また自分の英語が通じるかなど少し不安でした。でも私のバディが一生懸命日本語で自己紹介してくれたり、私も高校や日本について紹介していくうちに心の壁がなくなり、笑顔で会話することができました。今考えると私も、私のバディも決して完璧な英語ではなかった気がします。それでもお互いが理解し、笑い合えたのは、一生懸命コミュニケーションを取ろうという姿勢があったからなのかなと思います。会話ではお互いの学校生活、部活動、食べ物や趣味について話しました。その会話の中で、日本での当たり前が香港では違ったり、また香港での当たり前が日本では違うということも知ることができました。このお互いの国の生活や文化の違いは交流がなかったら一生知ることはなかったと思います。だから国際交流は本当に大切なものだと思えました。

この交流は私にとってかけがえのない思い出となりました。そしてコミュニケーションの大切さや文化の違いについて学ぶことができました。この交流で学んだことをたくさんの場面で生かして成長していきたいと思います。

○私のクラスでは、ホームルームの時間を使い、香港の学生と交流をした。交流では、まず初めにお互いの文化について紹介し合った。香港の歴史や食べ物などについて詳しく知ることができた。また、日本の紹介では、日本のアニメの紹介の時は、日本の学生も香港の学生もとても盛り上がっていた。その後、私たちは日本の文化である剣道や柔道などの「道」について紹介した。香港の生徒たちが興味を持って聞いてくれていたため、とてもうれしく思った。合気道の受け身を披露した時には、とても楽しそうであった。そして、私たちは日本で古くから遊ばれてきた折り紙やけん玉などで香港の学生と一緒に遊んだ。折り紙の折り方の説明をするのはとても難しかったが、身振り手振りで説明しながら一緒に鶴を織り上げることができたのはお互いに最高の思い出になったのではないかなと思う。初めは上手く交流できるか不安で、緊張していたが、香港の生徒が積極的に話しかけてくれてとても楽しい時間を過ごすことができた。また、香港の生徒たちと交流したいと思った。

○香港の高校生たちと交流して、自分がこんなにも刺激を受けるとは思いませんでした。私がバディになった生徒は、とにかくしっかりしていて、フレンドリーでとても同じ年とは思いませんでした。違う国の人が9人もいる班の中にいきなり飛び込んで、あんなに堂々としていられるだろうか

と本当に感激しました。グループ活動では、英語を聞き取るのと話すのに必死でしたが、分かったときや伝わったときは、ただただ嬉しかったです。香港の町の様子など、たくさんのことを教えてくれて楽しく情報交換ができたと思います。6時間目の日本の伝統のものを教える時間では、バディ以外の生徒とも交流することができ、自分の英語力のなさで伝えたいことを伝えられないもどかしさはありませんでしたが、香港の生徒たちのいいところをたくさん知ることができました。交流の時間は本当に短く別れは切なかったです。でも、それだけ仲良くなれていたのかなと思いました。もっと英語ができていたら、もっと深い話ができていると思うので、この交流をきっかけに、さらに自分の英語力を伸ばしたいと思うようになりました。そして英語力だけでなく、香港の生徒たちのコミュニケーション能力、自立しているところを見習いたいです。この交流のおかげで私たちは語学力の大切さ、異文化を知ることの楽しさを知ることができました。

○日常で他国の人々と会話などの交流の機会が少なかった中、このような貴重な時間が設けられたことは大変嬉しく思っています。日々学んできた英語が澳門の方々に理解してもらえるか心配でしたが、こちらの考えを積極的に聞き取ろうとする姿勢がありがたく、緊張せず交流をすることができました。

自分たちが日々受けている数学の授業を6名の澳門生徒が体験しに来てくれました。この授業では、まだ教わっていない内容でしたが、隣の席の宇治山田高生に自ら聞き、知ろうとする様子を目にしました。このような積極性は自分も学んでいかなければならないと考えさせられました。

体育館での交流会もありました。そこでは英語でのスピーチを聞かせてもらいました。聞き取るには難しかったこともありましたが、プロジェクターでの写真で何を伝えたかったのか少し理解できました。また、宇治山田高生数名で一人の澳門生徒との会話もありましたが、伝えたいことを理解してもらえたようで、話が盛り上がりました。

このような経験は今後に生かすことができるよう精進しようと思います。

○最初は、言語の違いとか文化の違いとかがあるので、コミュニケーションをとることができるのか、自分の意志をちゃんと伝えられるのか不安があったのですが、いざ話してみると、中国語、英語すらすらすらとはいかなかったけど、きちんと自分の意思、考えを伝えることができ、とても楽しく交流することができて、今までよりも、深く広くいろいろな話ができ、澳門についてたくさん知ることができて、ああやっぱり国際交流って良いなと感じることができました。

一緒に受けたGAの授業では、英語で質問をして答える、簡単なことだけど、どうやって英訳していいかわからないところがあって、中国語を交えながら話したけど、ちゃんと理解してもらえたり、自分も澳門の生徒が話している内容がちゃんと理解できたので、さらに掘り下げて話せた。

着物の着付けは、着付けの先生の言葉を英訳し、それを伝えるのは苦労したけど、苦戦しながらも、伝えながら着付けしてあげると、とっても喜んでもらえて、とってもたくさんの笑顔が見れて嬉しくなった。

もっとたくさん話したかった。一日じゃ足りなかった！！

日本料理を一緒に作ったり、名古屋の観光地を一緒に回ったり、もっともっと日本について知ってもらいたかったし、自分も澳門についてもっと知りたくなった！とっても楽しい交流会だった。

6. 参加者の対外発信

12月13日/高校生/Wechat 20191213 很享受同大阪府立刀根山高中同學的相處，課堂體驗與課外活動與香港有唔少差別，雙方都值得學習 	12月14日/高校生/Instagram  Liked by and 91 others 12.14 jenesys2019
学校訪問についての発信 大阪府立刀根山高校の皆さんと過ごす時間を満喫した。学校授業も課外活動も香港と大分違うが、両方とも学ぶところがあった。	ホームステイについての発信
12月17日/高校生/Instagram  和另外3人都讚好 Back to HK, thank you~❤️❤️❤️ #jenesys2019 6分前 · 查看詳情	12月15日/高校生/ Instagram  參觀豐田產業技術記念館，體驗了歷史和技術的傳承
日本理解についての発信	日本理解についての発信 トヨタ産業技術記念館を参観し、歴史や技術の伝承を体験した。

12月13日/高校生/Wechat

今日去了夫婦岩摸青蛙。
隨後去了和宇治山田高中的日本學生交流，認識了多位好友，最後還試了人生第一次的溫泉，感覺真爽 😊



日本理解についての発信

今日は夫婦岩に行ってカエルを触った。

その後、三重県立宇治山田高校との交流で何人かの日本生徒と友達になった。

終わりには人生初の温泉を体験。

素晴らしい一日だった！

12月15日/高校生/Instagram



Japan 🇯🇵
且行且珍惜💖一切盡在心中
#available

ホームステイについての発信

今回の経験を大事に、全てを心に留めておく！

7. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表

	
＜香港団＞ ・今回の経験を校内新聞「校園節拍」に投稿し、JENESYS の交流活動を知らない学生の興味を引き付け私の学校の学生に代表団の団員となってもらいたい。 ・SNS に日本で経験したことや体得したことをアップし写真など使って各地の友人に日本の文化や科学技術への理解を深めてもらう。 ・松山東高校で体験したカルタに興味を持った。今後も引き続きカルタの和歌を暗記し、いつか日本の高校生とまた一緒にカルタをしたいと思う。 ・学校の集会で今回の日本訪問の行程や内容を簡単に報告し、この機会を利用して日本で体験した文化を紹介する。香港の高校生に流行文化から知る日本だけでなく、日本の高校生の実際の生活への認識を深めてもらうために、日本の学校で体験した柔道と弓道という部活動を紹介したいと思う。この二つの活動は香港高校生が日本の伝統文化の品格を学ぶのにふさわしいと思うから。	＜澳門団＞ ・SNS や日常生活の中で先生や家族、クラスメートや隣人に日本で経験したことを伝える。 ・日本に留学したい友人と今回の収穫を語り合い、彼らに実際に体験した自分の感覚と彼らがあこがれている日本と異なるかもしれないが、日本の生活や風習を伝え日本に留学する学生の準備に協力する。 ・引き続き日中友好会館や在香港日本国総領事館の情報に注目し、さらに多くの日本の最新情報をゲットする。他にもニュースや新聞で日本関連の記事を気にかけて見るようにする。 ・日本語の勉強を続けて、日本に留学して日本の文化を学びたい。また今回の訪問で知り合った日本の高校生やホストファミリーと連絡を保ち、互いの文化をシェアし、日本の風習への理解を深めたい。 ・日本で学んだ環境知識を日々の生活に活用し、家族や友人に率先して資源回収活動をしように思う。また日本人の匠の精神を学んで自身の積極性を高めたいと思う。